

環境だより



環境課 ☎66・1121

猫は人間に服従せず、自由きままに生きる動物です。それは、猫の魅力のひとつですが、そうした性質ゆえに、人に迷惑をかけたりします。寄せられている主な苦情は

- ・ 鳴き声がうるさい
- ・ 庭を荒らす
- ・ 他人の敷地内で、ふん、尿をする
- ・ 車が傷つけられたなどです。

猫は室内飼育をしましょう

飼い主の目が届かないところで、人に迷惑をかけたり、交通事故にあつたり、病気をひろってくる場合もあります。飼い猫が他人に迷惑をかけるないようにするために、ま

猫は責任もって世話をしましょう



た、猫の安全のためにも、猫は室内飼育をしましょう。

野良猫にエサを与えるなら：

例えば、捨てられた子猫がエサを求めて鳴いていると、「かわいそうに」とエサをやりたいようになってしまうのが人情です。しかし、エサを与えるだけでは、なついた猫がいつも集まってきたりして、近所迷惑になる場合があります。エサを与えるなら、責任をもって飼育するようにしてください。

犬・猫に関する相談

愛知県動物保護管理センター
東三河支所
☎0532◆33◆3777

消防最前線

Journal
of
Fire
Department
119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

毎年、火災で亡くなる人は絶えることはありません。悲しいことです。

火災による死亡原因の大部分は「煙」です。火災現場では、燃え上がる炎そのものの恐怖もありますが、本当に恐ろしいのはむしろ立ち昇る「煙」なのです。平成13年、新宿歌舞伎町の雑居ビル火災で44人の方が煙に巻かれて亡くなったのは記憶に新しいことです。私たち消防士も、煙が充満した現場に進入するとき、背中に空気呼吸器を背負い、顔を覆うマスクを装着します。

なぜこれほどまでに煙を恐れ、煙から身を守らなければならぬのでしょうか。

煙 — 火災の本当の怖さ —

煙たくて涙が出るから困る。いいえ、そんな生易しいものではありません。煙にまかれると目の前は真っ暗となり、視界ゼロの状態になります。火事で逃げなければと焦りつつも、暗闇の中で方向も出口もわからずパニックに陥ります。

また、建物火災によって発生する煙は、ほとんど不完全燃焼によるもので、有毒ガスが発生している場合が多く、中毒死や酸素不足による窒息死などの危険もあります。高温の煙を吸い込むと、気道や肺がやけどして、呼吸困難になることもあります。

このように危険な煙から逃れるには、どうしたらいいのでしょうか。

煙の流れは皆さんが思っている以上に速いので、煙を吸わないように、すばやく手やハンカチなどで口を覆い、なるべく身体を低くします。そして明るい方へ向かうようにします。たかが煙と甘くみないで、慌てることなく行動してください。